

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400202		
法人名	社会福祉法人 新		
事業所名	グループホーム むろみ		
所在地	福岡市早良区室見5丁目10-34		
自己評価作成日	令和7年1月20日	評価結果確定日	令和7年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地下鉄室見駅から徒歩3分と近く、交通アクセスが良いことからお気軽にお立ち寄りできます。また、閑静な住宅街の一角で、室見川も近く、お散歩の際には利用者様に身近に四季を感じていただける恵まれた環境にあります。当法人ではかねてから特別養護老人ホームを運営しており、認知症をはじめとする介護に関する豊富な知識や技術を活かしたサービスを提供いたしております。また、協力医療機関との連携により手厚い医療が受けられることも利用者様やご家族に喜ばれております。当法人は、平成15年5月に開設した特別養護老人ホームの時代から「育ててくれた地域への恩返し」をモットーに運営をしております。地域密着型サービスである当グループホームでは、住み慣れた地域で安心して生活ができて、どなたでも気軽に立ち寄ることができる場所やサービスの提供を通して、認知症サポーターの資格を生かし、地域の方々やご家族、子供へ認知症の理解を深めていただけるよう、積極的に講座を開催し、更なる「地域への恩返し」を目指して運営してまいります。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームむろみ」は2ユニット(建物の2・3階部分)で、1階には小規模多機能施設が入る。運営母体の社会福祉法人は、市内にて昭和38年より外科医院での診療に従事しており、理事長ら医師が当該事業所にもほぼ毎日訪れている。同法人は、特養などを展開、法人内最初のグループホームとして11年前に開設した。地下鉄室見駅から徒歩3分の閑静な住宅街に位置し、室見川沿いの遊歩道に近い。法人として、地域に施設がなかったころから、地域のニーズに応える形で運営を続けてきたもので、それは現在も変わらず、医療連携(日々の健康管理、緊急時の対応、看取り対応)に力を入れ、住み慣れた地域で安心して生活ができることに力を注ぎ続けている。職員も日頃から利用者・家族の思いを大切にしたケアを実践している。コロナ禍もようやく落ち着き、もとおりの生活が戻ってきたようであり、今後も可能な範囲で日常生活が続けられるよう、職員も一丸となって支援を続けている。発展を期待させる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設を立ち上げた際に、職員全員で考えて作り上げた事業所の理念であり、地域に愛されることを目標にした内容となっている。 また、笑顔で接することや利用者に四季を感じていただけるように外出も行なっている。	法人の理念とは別に、開設時に職員と一緒に作成したグループホーム独自の理念がある。「挨拶や笑顔を大切に、地域に愛される」「四季や自然を感じていただき、みんなで喜びを分かち合う」「お互いが自然体で接し合える」という内容で、事業所に掲示している。職員は事業所のめざすもの、方針、地域密着型サービスの意義などを理解して常に心がけ、日々のケアに繋げようと努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域行事が減少しており、ほぼ参加できていない。	地域と円満な関係を築いており、次のとおりの交流がある。 ・聴覚に障害のある学生の実習を受け入れ、終了後に職員はその実習体験の発表会に招かれ、学生との再会を果たした。他に、中学生の実習も受け入れている。 ・事業所の前に、管理者の提案で花壇を作り、四季の草花が咲き誇り、近隣の方も関心を持たれたり、通りがかりの方も足を止めたりするなど、和やかな空間を提供している。春にはハナミズキの樹も満開となり、クリスマスのシーズンにはイルミネーションも施す。 ・事業所の活動に協力的な方をボランティアとして受け入れていて(運営推進会議にも出席いただいている)、季節の花とか、七夕の時の笹などを持ってきてくれている。 ・コロナの影響で地域の行事が中止になっていて、敬老会なども施設内で行っている状況の中、ハロウィンでは子供の仮装が見られた。	かつて(コロナ禍以前)は、次のような交流もされていたと聞きます。きっかけがありましたら、ぜひ前向きに検討されてはいかがでしょうか。 ・室見川の河川清掃に職員が参加した ・公民館のサロンを利用した ・法人の特養「あおぞら」での夏祭りに参加し、演奏を披露した ・事業所1階の相談室を地域の方々の話し合いの場に提供した
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	インフルエンザの影響で定期開催はできていないが、前年度よりも開催できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月分の業務実績と業務予定を報告し、これまでの取り組みの中から事例を挙げて意見を伺い、評価を行なっている。	コロナ禍も落ち着き、2ヶ月に1回の定期開催が再開され、すでに定着している。自治会長、包括職員、系列施設の職員、地域住民、利用者・家族らが出席、状況報告(サービス提供の経過、ヒヤリハット事例など)を行い、前向きな意見や提案、助言などがなされ、運営に役立っている。職員にも会議内容は共有、日々の業務に活かしている。事業所内にて議事録の閲覧可としている。	利用者家族の出席がもう少し増えたら、会議もさらに充実するのではないかと思います。開催日時、家族の興味をそそるようなテーマの選定(たとえば、認知症や骨粗鬆症の薬の話など)、避難訓練など行事との同時開催(以前はなされたこともあったと聞きます)、提供する昼食の試食会…など、少し趣を変えて、ご案内をしてみてもいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して事業所の実情を知っていただき、意見を伺っている。また、その都度わからないことがあれば連絡をして密にコミュニケーションをとっている。	困難事例の相談、感染症などの対策、諸報告書などの手続、空室などの情報共有などの対応でかかわりがある。行政や包括とコミュニケーションをとって協力体制を築くように努めている。	役所の方との連携に限ると、運営推進会議に出席いただけておらず、生活保護の方の受入もなく、なかなか直接訪問する機会がない…とのことで、決して疎遠なわけではないが、もう少し親交が深まると良いと思いますので、運営推進会議の報告書などだけでも、お届けされたいかがでしょう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は年に2回行っており、他にも動画視聴による研修も行なっている。現在のところ、身体拘束を行っている利用者はいない。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催、また肉体的・精神的虐待やスピーチロックも含めたところで、動画による研修を行って理解を深め、拘束のない生活の実践に努めている。日中は、離脱傾向の強い利用者への対応や、周辺の交通量、不審者の出入の用心などを考慮して、正面玄関にはやむを得ず施錠を行っている。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の延長で職員の密集を避ける為に今年度の研修はほぼ動画視聴による研修で賄っている。現在のところ、虐待につながることは起こっていない。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に沿ってフロア会議の場で研修を行なっている。その他、近隣の施設で行われた権利擁護の研修内容を会議で周知している。	現在制度の利用者はいない。研修を通して職員の理解、認識はある。今後、相談があるなど必要が生じた際に備えて、事業所にパンフレットは常備しており、また管理者主導にて適切な説明や対応ができるような体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はあらかじめ時間に余裕を持って対応しており、十分な説明をして納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご利用者の状態報告を定期的に行い、その際にご意見を伺っている。	コロナ禍が落ち着き、面会の制限は緩和(14～16時に限る)、家族が来訪する際に直接、もしくは電話や文書、メール、LINEなどで、情報交換を行っている。「むろみだより(写真や担当者のコメント付)」を事業所より送付している。玄関に意見箱も設置している。利用者の気持ちは、職員が傾聴する事で掘むように努めており、上手く意思表示ができない方からは反応などで職員が察したりしている。要望や意見などのすくい上げに努め、また上がってきた事には迅速に対応しており、それを職員が共有して日常のケアに生かしている。	家族会(開催を検討した事があった、と聞きます)開催や、無記名での家族アンケートの実施を検討されてはいかがでしょう。家族からの意見はできるだけ多く、様々な角度から得られた方が良いでしょう。意外な意見が寄せられるのではないかと期待するものです。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のフロア会議の場で意見や提案を聞いている。その他、申し送りノートやLINEを使って意見交換している。	日常的にも幹部職員への話がしやすい雰囲気、環境にあり、加えて、ミーティングや朝の申し送り時に提案をしたり、管理者は定期的に個人面談の機会を設けたりしている。提案された側も結論に時間をかけないように、迅速にタイムリーに改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接の際は、年齢や性別に関係なく平等に判断している。また、働いている職員に対しても面談を行ない、長所や短所を見極めたアドバイスをおくなどの配慮をしている。	職員は20～60歳代で層が厚く、男女比もバランスが取れていることから、利用者も安心してコミュニケーションができる。職員の休憩時間・休憩場所の確保、シフトの希望や上級資格取得にも職場の理解がある中で、職員はそれぞれの資質や特技を発揮して、メリハリのある勤務ができており、生き生きと働いている	

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修計画に沿ってフロア会議の場で研修を行なっている。その他、近隣の施設で行われた権利擁護の研修内容を会議で周知している。	研修の中にカリキュラムをして組まれており、それを受講することで、一人一人の尊厳(その人らしさ)についても重要なテーマの一つと位置づけて認識を深めることができています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って内部研修を行い、その都度外部研修への参加も促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で同業者との交流が減少しており、同法人内で行われる研修や交流会に参加して交流を深めている程度。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際にグループホームでの生活に対する意向の確認を行なっている。また、なじみの関係を築けるように毎日コミュニケーションをとっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に面談を行っており、その際に要望や質問を伺っている。また、契約の際にも再度確認するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをとることでニーズを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「温かな心をもって毎日を笑顔に」という理念をもとに関係作りに努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめな連絡を行い、病院受診での外出の際や行事の際などご家族が関わる事ができる機会には可能な限り参加していただけるように働きかけている。		

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に関する説明を行う際に、これまでの生活環境により近づけることができるように自宅にあるものを居室に持ってきてもらえるように説明を行っている。	コロナ禍が落ち着き、家族の面会、家族との外出・外食などができるようになり(実際に、冠婚葬祭への参加、自宅外泊や一時帰宅などもなされている)、非常に喜ばれている。職員は、収集している情報(昔の仕事や住まい、よく行った場所のことなど)から懐かしい話をしたり、家族や友人らと電話や手紙で連絡を取り合ったり、どうかたちでの支援を行っている。馴染みの事柄との結びつきの継続は、刺激を誘発することにもつながると考えている。	訪問理美容の方と新しい馴染みになるのは良いことですが、「行きつけで利用していた馴染みの美容室へ、ご家族にお連れ頂くのはいかがですか?」と家族にお声掛けしてみるのはいかがでしょう。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の自由を尊重しつつも、レクリエーションや行事への参加は全員に声掛けするようにしている。また、利用者同士でのコミュニケーションを円滑に取れるように職員が間に入って会話するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の関係施設へ入所された際は、本人や家族のフォローはできている。事業所種別が変わることでの本人へのサービスの違いやその影響についてアドバイスしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所した際にアセスメントをとり、意向の確認をしている。	アセスメントは既製の様式を使用して管理者、ケアマネジャーが行う。本人からの意向の聞き取りを積極的に行うが、難しい方には家族にも確認、これまでの経歴からの掘り起こしなどにより、事業所内でできる範囲にて、要望に沿った個別の支援を計画し実行している。個々のベースでの生活の把握に役立っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞いて生活歴の把握に努めている。また、医療機関や介護施設からの情報提供からも把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し個人記録をつけることで一日の過ごし方や心身状態などの現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の説明の際に、ご家族や本人からの質問や意見を伺い、本人の状態に変化があった際は家族に連絡し、その都度報告している。また、おおむね6ヶ月に1度モニタリングを実施して介護計画に反映させるようにしている。	担当制(職員1人が利用者1~2名を担当)により把握した各利用者の情報を、カンファレンスにより全職員が共有する。関わる専門職(医師や看護師ら)、家族からの聴き取りなども踏まえてプランが作られ、目標(6ヶ月~1年、もしくは随時)に対する日々の達成状況をチェックしたうえで、6ヶ月に1回モニタリングを行う。状態の変化があれば、いつでも介護の方向性を含め、プランの練り直し(検討)ができる。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録をもとにフロア会議でモニタリングを行い、その際にケアの方法についても話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福岡市外に住所がある方でも、入所できるように柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌の情報をもとに地域資源の活用を検討しているが、現在のところ、これといった実績はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の契約の際に、かかりつけ医を確認しており、急変が起きた際の対応についても説明をして納得を得ている。また、通院介助や往診にて利用者の健康管理をしている。	事業所を運営する母体法人の理事長である医師らがほぼ毎日訪問診療を行っている。もともとの主治医を継続するのも自由だが、事業所の提携医を選ばれるケースが圧倒的に多い。歯科の訪問診療もある。急変時や、他科(眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科など)への通院については職員が支援することがある。日常的な健康管理および急変時の対応の体制も整っており、家族や職員と情報は共有、家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の申し送りの際に看護師への報告を行っており、異常が見られた際も適宜報告を行い、適切に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、適宜、医師に状態を尋ねることで現状を把握している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、看取り介護についての説明を行い意向の確認を行っているが、入所時には対象の方がおられないことから、実際にターミナルの状態になった時に再度意向を確認する旨を伝えている。実績あり。	重度化・終末期に取り組むことの指針があり、契約(利用開始)時に加え、重度化の際に改めて書面にて同意を得ている。必要時には早い段階からこまめに遺漏のないよう家族と話し合っ方向を確定する。ここ1年の間でも看取りを行っている。看護師を中心とした医療対応を通して、家族の求めるケアの実践に取り組んでいる。研修も行われている。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修計画に沿ってフロア会議の場で研修を行なっている。その他、近隣の施設で行われた権利擁護の研修内容を会議で周知している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と12月に避難訓練を実施し、施設で火災や災害が起こった時の対応を確認した。	年2回、夜間の災害想定を含めての避難訓練を行っている。設備会社が立ち会っており、消防署へは報告をする。職員は緊急時対応マニュアル(BCP)に基づき、避難方法や経路、担当、消火器・AED等の使い方などの理解を共有している。備蓄(アルファ米など)もある。なお事業所はハザードマップ上は、室見川に近く、水害の心配のある地域であり、万一の場合には職員が事業所に泊まって、垂直非難を徹底する。	訓練において、地域住民や利用者家族の参加まではなくても、アナウンスは行って、訓練を行って万全な体制で臨んでいることを報告をして安心してもらうと同時に、万一の場合の協力をお願いすることを、軌道に乗せたいかがでしょう。また、地域の避難訓練や説明会などがありましたら、職員に出席していただきたく思います。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築けるように方言を交えながらも人格や誇りを傷つけないように配慮した声掛けを行っている。	利用者に対しては、その人らしさを大事にした適切な声掛けを、ちょうど良い距離感を保ちながら行っている。気になる点があれば、幹部職員から、もしくは職員相互にて、指摘し合うなどの対応を行っている。接遇やプライバシーについての研修もなされている。写真利用(掲示など)については家族より書面にて同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事手伝いや、レクリエーションや体操などの活動において強制的ではなく自己決定できるような形でお願いしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活や生活リズムを大切にしながらも、基本的には自由に過ごしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や臥床時の更衣の際は、可能な限りご自身で衣類を選んでいただいている。また、外出の際は、お化粧をして外出着で出かけている。好みに合わせてマニキュアを塗っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、食事レクリエーションを行っている。その際、一緒に準備をして料理をしている。日々の食事に関しては、主に片づけを一緒にしていただいている。	業者より届く、予め調理された物(汁物を含む)に若干の手を加えたり、加熱したりしたうえで、盛り付けをして提供する。炊飯は事業所にて行う。嗜好、体調、形態(ミキサー食等)、療養食(減塩、アレルギー等)に応じた変更は可能。利用者の中には後片付けなどを手伝う方もいる。行事食(おせち料理、年越しそば、敬老の日の膳)では趣を変え、また手作りのおやつ(たこ焼き、パンケーキ、お好み焼など)のレクもある。利用者や検査者の意見は業者に伝えるが、利用者には概ね好評。基本的には職員は別に食べるが、利用者の会話には介助や見守りを通して参加、毎回楽しいひとときを過ごす。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携し、食事摂取量やカロリーの調整を行っている。また、可能な限り、自力摂取出来るように必要な器具は、その都度準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の状態観察は、口腔ケアの際に毎回行っている。その他ほぼ全員が居宅療養管理指導にて毎週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングの際に排泄の場所や物品の検討をして、可能な限り自分の力で排泄が出来るように支援している。	トイレは各ユニットに3ヶ所ずつ設置されており、いずれも介助がしやすい。夜間のみ居室内でポータブルトイレを利用する方もいる。ユニットごとに全利用者分を24時間管理できる排泄チェック表があり、職員はそれを共有することで、各利用者の排泄パターンを把握、自立排泄を念頭に、声掛けや誘導、介助を行っている。失禁が減ったり、下着・おむつ類が軽い物に移行したり、といった改善も見られている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便パターンを把握する為に排泄チェック表に記録を残しており、便秘傾向にある方は運動を促し下剤でも調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴をする機会を設けており、現在のところ利用者の希望は聞かれていない為、こちらの都合で行っている。	浴槽の配置は三方向から介助ができ、サイドベンチが置かれている。週2回の個浴で、湯は毎回入れ替える。拒否のある方、羞恥心の強い方には、職員は苦慮しながらも、タイミングを見計らって諦めずに声をかけなおす。シャンプーや入浴剤、化粧水、乳液などの持ち込みは自由、また季節湯(柚子・菖蒲)を工夫するなど、入浴を楽しむ配慮も見られる。必要時には足浴を行ったり、温タオルで手足を拭いたりする。脱衣所・浴室とも暖房が完備されている。職員は利用者とのコミュニケーションに配慮すると同時に、皮膚の状態なども観察するようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状で就寝のタイミングが分からない方以外は、自分のタイミングで就寝していただいている。また、安心して眠っていただけるように自宅での環境に近い量を使用していただいている方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、内容に変更があった場合や疑問に思ったことなどは随時確認をとっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室見川が近いことから、天気の良い日は散歩に出かけて四季を感じていただき、気分転換をしていただいている。利用者の趣味を活かせるレクリエーションや毎月食レクリエーションを企画し、取り組んでいる。		

R7.3自己・外部評価表(事業所名GHむろみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「花を見に行きたい」「外に出たい」などの希望があり希望を叶えられるよう支援している。通常、外出したいとの希望があった場合は、室見川や近所の公園に外出している。	近場の散歩(室見川沿いは、桜並木は見ごたえがあり、遊歩道にてユリカモメにパンをやったりできることから、遠出をしなくても、四季折々に楽しめる)や、誕生祝を買いに行く、ということがある。施設の花壇の世話(水をやったり、肥料を与えたり、植え変えたりもする)や、中庭でのトマトやレモンの収穫をしながら、ウッドデッキなどで外気浴をしてくつろぐ。	コロナ禍の前は、回転寿司や木の葉モール、初詣、十日恵比須などへ外出していた、とも聞きます。外出の際は、地域の支援を仰ぎながら、前向きに、計画的に行っていただくことを期待したいと思います。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等の手紙のやり取りをされてある方がおられ、施設に手紙が届いた場合は、利用者へお渡しし、利用者が手紙を書かれた後は、一緒に郵便局へ手紙を持って行くなど、対応している。毎日家族と電話をしている利用者もいた。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に、利用者の方が気持ちよく過ごしていただけるように毎日清掃しており、壁の飾りを工夫することで季節感を感じていただけるよう配慮する。	2・3階に1ユニットずつ配置されている。フローリング調で統一された床には落ち着いた雰囲気がある。当事業所は室見川まで100mのところに立地するが、窓から眺めるのは難しいので、その分共有スペースに切り花を生けたり、雛人形や四季折々の作品(貼り絵・切り絵)などを飾ったりして、季節を感じる事ができる。掃除が行き届いていて清潔感があり、臭いや音、温度にも職員は絶えず注意をしている。利用者は共有のソファなどでゆったりとした時間を居心地良く過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人がけのテーブルを2卓と3人がけのソファを配置しており、感染予防のために可能な限り同じ方向を向いて座っていただいている。その際、気の合う方が隣同士に座っていただけるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に関する説明を行う際に、これまでの生活環境により近づけることができるように自宅にあるものを居室に持ってきてもらえるように説明を行っている。仏壇やソファなどの家具やいつも使っている毛布や布団を持ち込まれる方が多い。	居室はフローリング床でゆったりとしており、室内は明るい。ベッド、エアコンに加え、洋服箆笥、整理箆笥が備え付けられ、上部の棚も含めると収納スペースが多くて整頓しやすい。仏壇・ソファ・テレビ・思い出の写真など、使い慣れた馴染んだ物を中心にそれぞれ自由に持ち込んでいて、こだわりも感じさせる。利用者は思いの詰まった居室で居心地良く過ごしている	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしたり、利用者の動線に配慮して家具を配置している。		